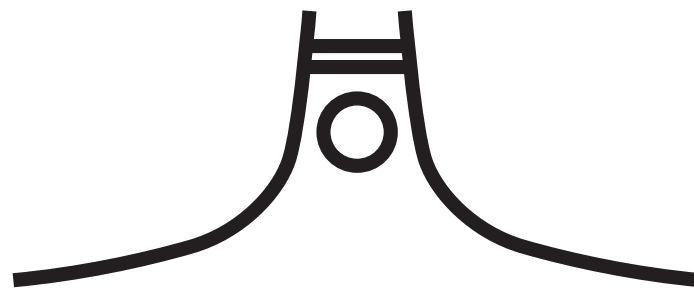


こんにちは！



# Annual Report 2025

秋田市文化創造館

Akita City Cultural Creation Center

# 小さな試行錯誤

音や匂いも

まちへの興味

空っぽ？

未来を創る場

## 秋田市文化創造館とは？

市民一人ひとりの創造力を育むため、学びと出会いの機会の提供、活動のための環境、情報発信などのサポートを行う、すべての人のための活動拠点です。どなたでも気軽に利用できるフリースペースとして、また、さまざまなイベントや創作活動の場としてご利用いただけます。

応援してくれる

安心安全な  
創造の場づくり

何かをしてもいい

何もしなくてもいい

“干渉”という“機会”

多目的なんでも空間



「やってみたい」をカタチにできる、

藤浩志「Project Goodbye」関連企画 素材と制作と循環を考える現場 「かえる、かえる。」 3月7日～4月6日

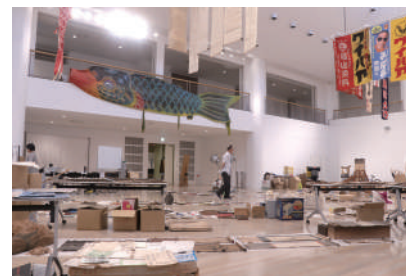
主催：秋田公立美術大学、NPO 法人アーツセンターあきた



竿燈公演 | 7月3日 | 主催: 秋田市竿燈まつり実行委員会



天井高く、床面めいっぱい、  
資料整理も、練習も、  
すべてが文化創造の営みに



## 民具とアートとアーカイブの研究所「民具ラボ」

8月4日～24日 | 主催: NPO 法人アーツセンターあきた

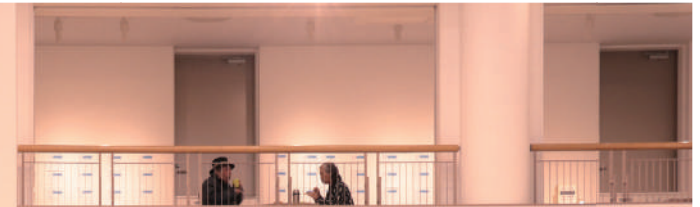
秋田市在住の収集家・油谷満夫さん(91歳)が収集した民具等をお借りし、研究者やボランティアとともにスタジオA1の床面いっぱいに広げて分類整理と記録が行われました。

## 第3回あきた吹奏楽の日の練習 | 12月20日 | 主催: あきた芸術劇場 AAS 共同事業体

文化創造館のお隣、あきた芸術劇場ミルハスで開催された「あきた吹奏楽の日～大いなる秋田」定期公演の合唱練習を約300名で行いました。



ひとりで、  
思いっきり  
大胆に、  
使い尽くす



## 木村正樹 写真とオブジェ作品展 XII GLOBE IX 「背中の翼」II 〈全玩具展〉

10月23日～27日 | 主催：木村正樹

秋田市在住の木村さんが長年かけて制作したモノクロ写真や自作のオブジェ等を A1 の壁面に構成した展覧会。創造館の壁面は重量物もビス等で固定できる仕様となっており、自由度の高い展示演出が可能です。（※利用後の原状復帰が条件）



### 秋田県文化による地域元気創出事業「ダンス市場 2026」

2月28日～3月1日 | 主催: 秋田県芸術舞踊協会

スタジオ A1 天井には昇降式の吊りバトンがあります。天窓を遮光することで、暗転させた空間をつくり、没入感のある演出も可能です。このご利用では、舞台と客席が接続した臨場感あふれるステージになりました。また、別途申請によりスモークも使用できます。



### 全国47都道府県ひとりコンサート 明和電機★UMEツアー 2025

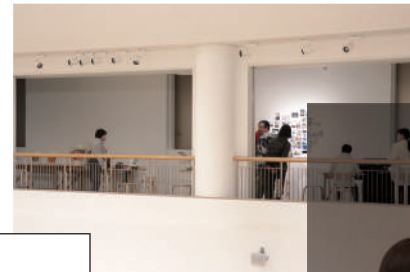
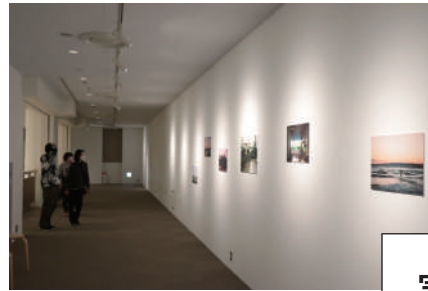
7月7日 | 主催: 株式会社明和電機

大規模な舞台や展示会場として、  
日々さまざまに表情を変えていく



### 第72回秋田市児童生徒作品展覧会

8月30日～31日 | 主催: 秋田市教育委員会



「そうだん会」から  
実現した初めての個展



スタジオ A3は、スタジオ A1 をぐるりと取り囲む、奥行きのある回廊型の展示空間です。菅埜さんは主催事業「そうだん会 (P26)」を通じて当館コーディネーターと対話を重ね、展示手法の検討を経て、自身初となる個展を実現しました。

### 写真展 Still / Once

11月15日～16日  
スタジオA3 | 主催：菅埜勇太

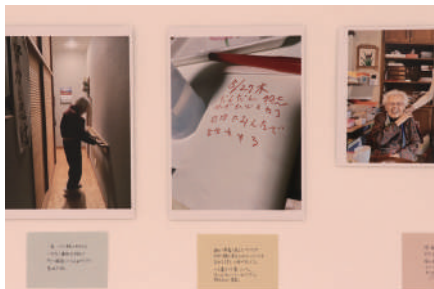
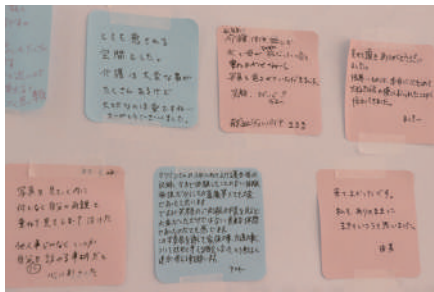


### inFLUX - 秋田公立美術大学助手展 -

11月20日～27日  
スタジオA2 | 主催：秋田公立美術大学助手有志展実行委員会



一人の展示の場が、  
誰かとの対話の場に



### 親の介護 3年間の記録 写真展

5月28日～6月2日 | 主催：マツミン

3年間に及ぶ両親の介護を撮影した写真展示。主催のマツミンさんは、当初は記録を形にする予定はありませんでしたが、当館事業で企画の立て方を学んだり、コーディネーターとの相談を重ね、次第に展示という形にしたいという思いが生まれたと話していました。



### 秋田市大学生短編映画 製作プロジェクト完成上映会

2月22日

主催：秋田市未来創造

人材育成・プロモーション事業実行委員会



### 第9回

### あきたウクレレ交流会・ジョイントコンサート

10月26日

主催：UkuLet's (ウクレッツ)

スタジオBは当館で唯一窓が無く  
独立したスペースなので暗室利用も可能です



小規模な利用から  
始めることができます



「iibe」 pop up store

4月19日 他各回あり | 主催: iibe



ガンダム模型製作所

4月16日 他各回あり | 主催: ガンダム模型製作所

高校生から仕事帰りの方まで、共通の趣味により世代を超えた繋がりが生まれています。



武将になってみよう! レプリカ甲冑着用体験

7月13日 | 主催: 秋田市立佐竹史料館

佐竹史料館の建て替え休館中に当館で複数回開催いただきました。年齢を問わず人気の企画に。



秋田弁の昔っこ

8月25日 | 主催: あきた民話の会



**第10回 お堀端の古本市**  
4月12日 | 主催: ほんのたねあきた



**ピックルボール de ビアフレス**  
8月8日 | 主催: 秋田ピックルボールクラブ



**盆踊 DISCO take2 ~昭和100年記念大会~**  
11月1日 | 主催: 酒泡酒泡クラブ

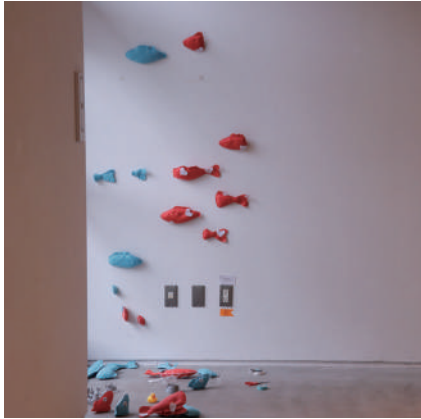


**作って使う! 三五八ワークショップ**  
5月10日 | 主催: 豆腐百景

マルシェや  
飲食を伴うパーティー、  
静寂を演出する時間も



**全国高等学校総合文化祭プレ大会**  
10月10日  
主催: 秋田県高文連茶道部事務局



## 1m<sup>2</sup> でなにしようプロジェクト「こて ん?」

6月26日～27日 | 館内各所 | 主催：1㎡で何しようプロジェクト

文化創造館は1平方メートルからご利用いただけます(1時間あたり5円)。「1m<sup>2</sup>で何しようプロジェクト」はこの仕組みを面白がった利用者が始めた、最小スペースの可能性を探求するプロジェクトです。当館の様々な隙間の魅力を引き出させていただきました。



## mutsumi winery POP UP STORE Vol.1

2月7日 | カウンター  
主催：むつみワイナリー

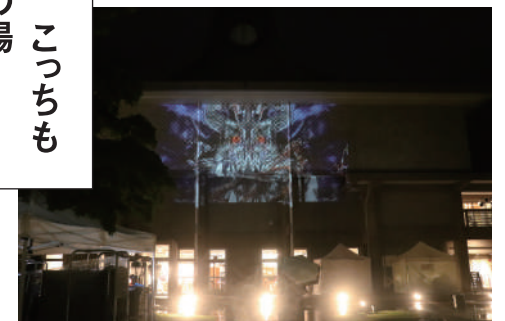
2階へと続く屋外階段から入館すると、ホール・そしてカウンターが目をつけます。こちらは旧県立美術館時代に、来館者受付だった空間です。その佇まいを活かし、バーカウンターを模して飲み物をふるまったり、商品販売等にご利用いただきました。



## G-JAM

8月10日  
主催：HAIR WORK SHOP TIMELESS  
イッセイ、COOLBORN

全館あつちも、こつちも  
すべてが表現の場



## AKITA アジアトライ千秋芸術祭 2025

9月13日～14日 | 主催：久保田城下踊り旅実行委員会



**SCOOPS** | 6月21日 | 主催: SCOOPS



**フリーコーヒー ~コラボイベント~**  
4月12日 | 主催: フリーコーヒー秋田



**セミになる会**  
8月22日 | 主催: ダボハゼどぜう子



**セッション会** | 9月23日 | 主催: おのちひとみ



**文字を読んで語るカフェ**  
4月5日 他各回あり  
主催: 文字を読んで語るカフェ (田中)



**秋田の焚き火コミュニティ「アキタキビ」**  
9月28日 | 主催: 株式会社なんで・なんで  
※裸火を使用する際は消防申請が必要です



**フリーゴザ** | 随時  
晴天時は、自由に利用可能なゴザを設置しています。

屋内でも、屋外でも、  
市民の表現が盛り沢山

作品展・マルシェ・講演会・ダンス練習・サークル活動などの制作活動から展示やイベントまで、活動の規模や表現スタイルに合わせて柔軟にカスタマイズすることができます。利用に応じて必要な什器や機材も貸出可能。初めて事業を企画する方もまずはお気軽にご相談ください。



詳細はこちら





いつでも、だれでも、  
じゆうにつくれる工場

つくりたい!





子どもも、大人も、  
みんな自由に工作中



開催日 | 開館時間であれば、常時利用可能

会場 | 文化創造館1階 コミュニティスペース

協力：秋田プライウッド株式会社、吉田ビニール株式会社

つくるために必要な素材、道具が揃っているスペースです。予約不要で、いつでも誰でも利用可能。素材の中には、空き箱のほかに、木材や塩化ビニールなど、秋田市内の企業から提供いただいたものもあります。作った作品は持ち帰ることもできます。



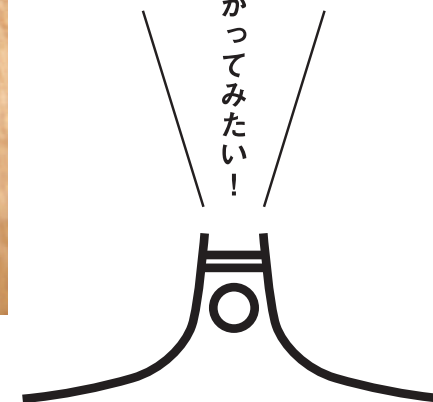
詳細はこちら

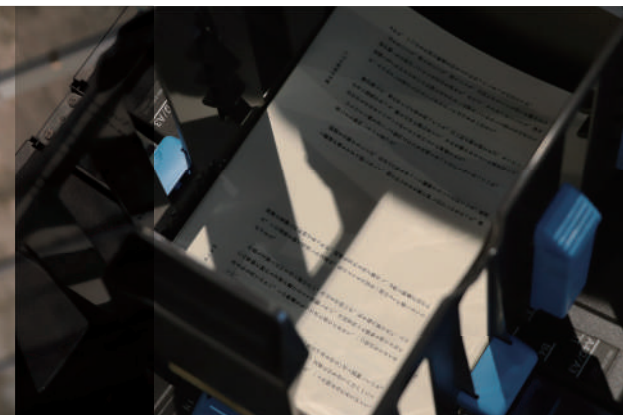
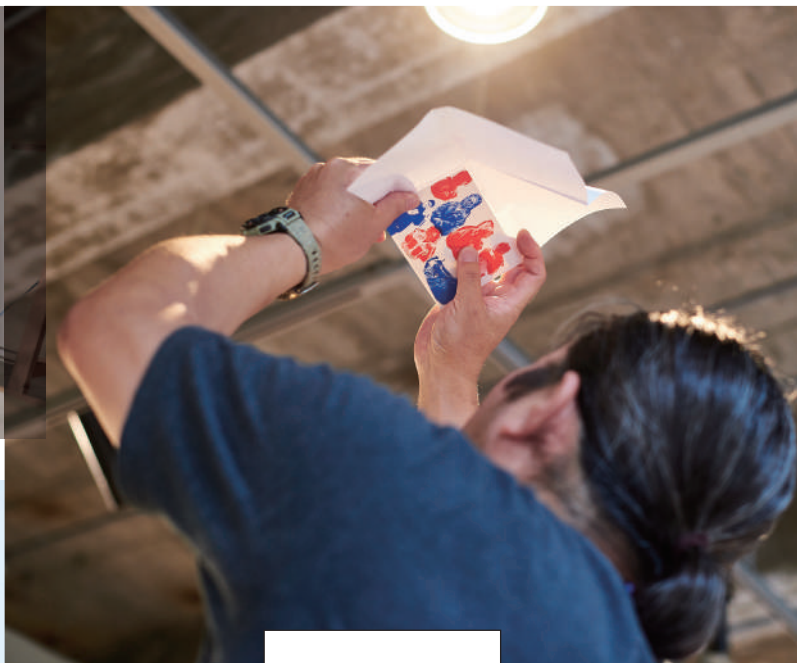
ソウゾウカンラボ拡大月間  
開催日 | 2026年3月7日～4月6日



特殊な印刷機に  
触れてみる

つかってみたい!





チラシ、ZINE、  
フリーペーパー  
リソグラフを使って  
一味違う風合いに



## リソの日

開催日 | 毎週水・土曜日開催

会場 | 文化創造館 1階 コミュニティスペース

持ち物 | 印刷する用紙、原稿（データもしくは手書き）

リソグラフ印刷機を有料で利用できるサービスです。リソグラフ特有のズレ、かすれ、にじみなどを活かした印刷物を制作可能。色は赤・青・黒の3色です。

【利用例】A3サイズのイベントポスター／エッセイを書き留めたZINE など



詳細はこちら



表現の広さと面白さを  
じっくり感じる時間



開催日 | 8月17日

会場 | 文化創造館 1階 コミュニティスペース

岩手県遠野市にて、スタジオを構える「中野活版印刷店」の中野さんをゲストに迎えて行われた印刷ワークショップ。活版とリソグラフィを組み合わせた「ポストカード」と「名刺サイズの印刷物」を制作。通常のリソの日よりも、一步踏み込んだ表現技法を学ぶ会となりました。

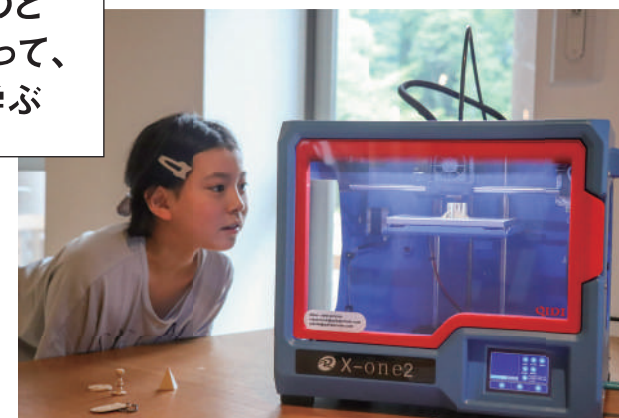
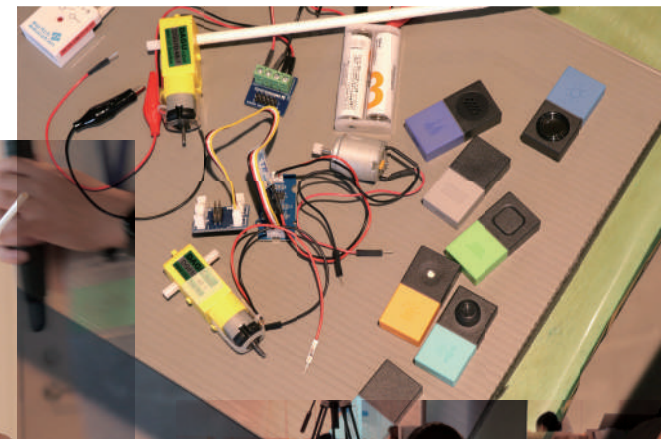


レポートはこちら





身の回りにあるものと  
デジタル技術を使って、  
課題解決方法を学ぶ



3Dプリント部

3Dプリンターを使ってものづくりを楽しむ部活です。  
2025年度は試験的に運用していました。

開催日 | 8月3日

会場 | 文化創造館1階 コミュニティスペース

プログラミングキット「MESH」と「工作」を組み合わせ、音の鳴る装置を作るイベント。10代のためのデジタルテクノロジー拠点ハイラボ(五城目町)の館長・松浦真さんをはじめ、テクノロジーで社会課題に取り組むArc&Beyondの萩原文博さん、原援又さん、秋田公立美術大学の高橋卓久真さんと一緒に、プログラミング体験やアイデア発想方法を学びつつ、実際に制作し発表するワークショップを実施しました。

# “みんなで”“バラして”“つくりかえる”ワークショップ

#空間の提供



モノ・コト・ヒトの  
おもしろたのしい関係

開催日 | 2026年1月31日、2月1日

会場 | 文化創造館 2階 スタジオA1

主催：秋田市 / 企画・制作：NPO 法人アーツセンターあきた

協力：秋田プライウッド株式会社、株式会社藤スタジオ、吉田ビニール株式会社 / 協賛：明治安田生命保険相互会社 秋田支社

開館当初から文化創造館の空間を支えてきた家具を、次の5年に向けてアップデートするため、一度「素材」に戻して作りかえるワークショップ。監修には、「モノ・コト・ヒトのおもしろたのしい関係」を引き出す拠点づくりを手掛けるクリエイターユニット・岩沢兄弟を迎え、参加者と共に「解体」から始まる家具設計を行いました。



レポートはこちら



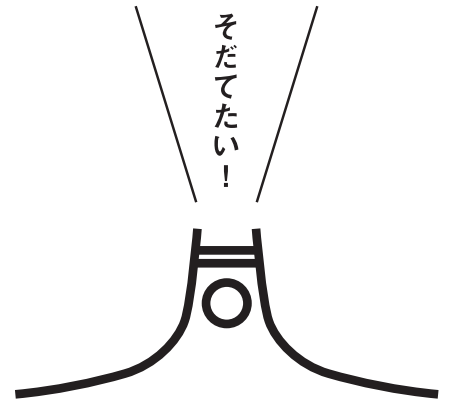
# みんなのはたけ おやさい隊

#空間の提供



地域のみんな  
とともに育む

そだてたい!





野菜を  
愛でながら  
参加した人と  
交流する



開催日 | 2025年5月～2026年3月

会場 | 文化創造館デッキほか

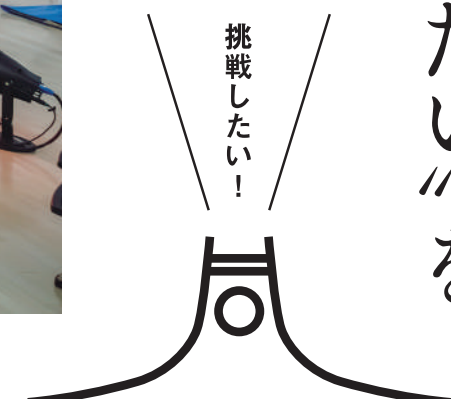
屋外にプランターを設置して共同で野菜を育てるプログラムです。季節に合わせて野菜を育て、観察日誌をつけながら、野菜の水やり・お世話・収穫を行います。参加者自身がグループ名を「おやさい隊」と名付けて毎日活動していきました。5月から2月まで計9回のイベントを実施しました。

【参加人数実績】おやさい隊 参加者数：33名(通年) | イベント参加者数：のべ81名



あなたの「やってみたい」を  
カタチにしちやう

挑戦したい!



# 第3回 チャレンジマーケット

#創造支援

2024年に千葉から秋田に移住してきたばかりで、  
1人の人に向けた弾き語り  
写真集の制作・販売にチャレンジしたい?!



和紙や模造紙だけで「紙製ドレス」を  
公開制作するパフォーマンスをしたい?!



開催日 | 5月6日

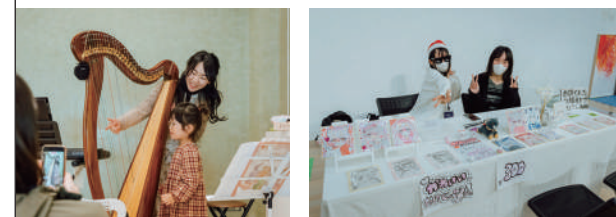
会場 | 文化創造館 1階コミュニティスペース、2階スタジオA

子どもから大人まで「やってみたい」ことに気軽にチャレンジできるイベント。物販・食販・演奏・ワークショップ・展示のほか、公開制作・ダンス・物々交換・ライブパフォーマンスなど、ジャンルを超えたさまざまな思い溢れるチャレンジが集結します。



ライブドローイング?!

これもチャレンジなの?!



出店者一覧



水族館で見たアシカに感動して、  
アシカになるパフォーマンスをしたい?!

主催：秋田市文化創造館 / 後援：秋田市

# 第4回 チャレンジマーケット

#創造支援



先輩二人が、ニートな後輩を引っ張り出して、生きる気力を取り戻すためのチャレンジ?!



ひょうたんを材料にした、ライトや帽子作品の展示・販売チャレンジ!?  
集まった人たちとひょうたん作品制作ワークショップも開催。  
出店をきっかけに、他県にも活動を広げています。



自由な発想や作品が  
あちらこちらで



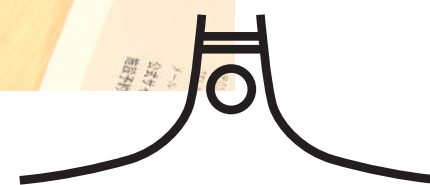
出店者一覧

開催日 | 9月21日

会場 | 文化創造館2階 スタジオ A1・A2、3階 スタジオ A3、屋外エリアほか

「まず、はじめてみる」と探してみる

そうだんしたい!



市内の無機質な擁壁に秋田ゆかりのクリエイターによる作品を制作し、**街中を巨大な美術館に変えることはできないか。**このアイデアを具現化するために、どの組織に交渉・協力依頼をすべきか？

迷うこと、  
悩むこと、  
そんなことから  
始まること  
がある

歌唱のパフォーマンスに興味があり、曲を制作して、人前での発表や、オンライン上で発信をしたいと思っている。創作活動にあたって、プロセスやネットワークの構築、マネジメントに関してアドバイスいただきたい。

在住地の文化施設で、月に一度、美大生と何かを作りながら、**市民がアートに親しんだり、アートについて話したりするイベントを企画**中。創造館ではどのように広報活動を行っているか参考にしたい。

写真と言葉を元にした**フォトブックを作りたい**。形にするにはどのようなサービスを使えば良いか、また、どのような届け方ができるかなどを一緒にお話できたら嬉しいです。

創造館で開催した企画について、**反省ポイントをまとめたので、それを踏まえてアドバイスをいただきたい。**

開催日 | 毎月第1金曜日 12:00 ~ 18:00

会場 | 文化創造館1階 総合案内

新しい活動に挑戦してみたいな……とそうぞうしている人・団体に向けた事前予約制の相談会です。浮かんでいるアイデアを実現するために、さまざまなバックグラウンドをもつ文化創造館のコーディネーターと「まず、はじめてみることを一緒に探ってみましょう。明確なイメージがまだ掴めずにいる方も大歓迎。まずはお気軽にご相談ください。



詳細はこちら





時間は1時間。持ち物は  
「語りたいたいこと」だけ

かたりたい!

「手話歌を語る」 開催日 | 1月21日



「第4回 下手でも楽しもう!ポーカー交流会」  
開催日 | 9月17日



「革について」  
開催日 | 9月10日

開催日 | 毎週水曜日 18:00~19:00

会場 | 文化創造館1階 コミュニティスペース

どなたでもその日限りの「一日店主」となって、自分の趣味や悩みなど、誰かに語りたいたい・誰かに話を聞いてみたいテーマを設定し、場を開くことができます。



週に一度、誰かと語り合うだけのバー(場)

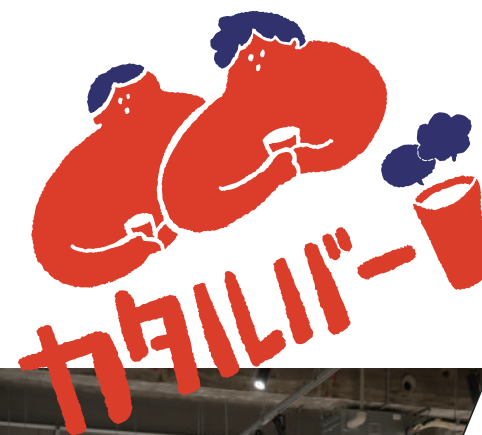
「夜を越える」  
開催日 | 12月17日



「テキーラについて飲みながら語ろう・語らせてください」  
開催日 | 3月18日



詳細はこちら



番外編!



## カタルバー番外編 ～文化創造館で何する?～

開催日 | 12月14日 17:30~19:00

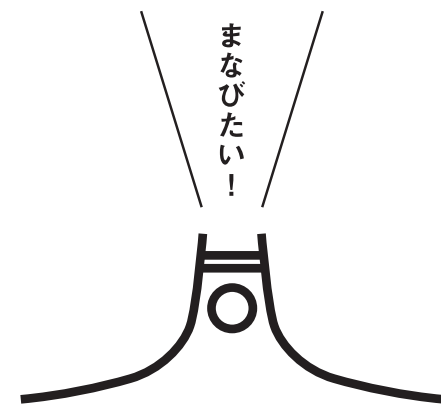
会場 | 文化創造館1階 コミュニティスペース

文化創造館で企画・実施した活動や参加したイベント、参加者それぞれの一年の取り組みについて振り返る交流会(サロン)を開催。初めての参加も歓迎し、施設の利用ルール、活用のヒントなどを知ってもらうとともに、文化創造館のよりよい活用に向けた意見や提案を共有する機会となりました。



新たな視点や  
知識と出会う

まなびたい!





太平山の登山道を行く



開催日 | 7月5日

会場 | 文化創造館 2階 スタジオ A1

写真集『太平山系 失われた石像』に収められた太平山の登山道や廃道にある石像約100体。故畠山秀雄さんが30年かけて撮りためました。写真集を刊行した佐藤成樹さんと秋田の山に精通する佐々木民秀さんのお話とともに、太平山の登山道の今昔をたどります。

# 塩野米松さんに学ぶ「聞き書き術」

#機会の提供



すべての文章の基本  
「聞き書き」を実習する



開催日 | 7月20日～21日

会場 | 文化創造館 2階 スタジオ A1

角館在住の作家・塩野米松さんを講師として招き、「聞き書き」の基本的な心得や技術を学ぶ機会を設けました。塩野氏による授業をはじめ、インタビューや文字起こし、原稿執筆までの実習を通じ「聞き書き」について学びを深める2日間です。

話し手(敬称略)：加藤 誠士(新政酒造株式会社 原料部 部長)／加藤 直哉(ISUKA / 雲の巣)  
高橋 香澄(金工師・秋田銀線細工職人)／東 穂高(硝子造形家)／斉藤 健(弦楽器職人)／藤 浩志(美術家)



# クロストーク「やまはげ、なまはげはどこから来るのか？」

～下浜桂根のやまはげ、上新城のなまはげをめぐる～

#機会の提供



伝統文化を継承する



開催日 | 11月1日

会場 | 文化創造館 2階 スタジオ A1

共催 | 秋田市農村活性化センター さとびあ

かつて秋田市下浜桂根地区で行われていたユーモラスなお面の「やまはげ」。上新城で100年近く続く小又集落と白山集落が協力し今も執り行う「なまはげ」。二地域の代表者が伝統行事継承の課題を語ります。基調講演は民俗学の研究者である齊藤<sup>じゅいん</sup>壽胤さん。



秋田を取り巻く  
環境について考える



開催日 | 12月15日

会場 | 文化創造館 2階 スタジオ A1

市街地や住宅地など里山を越えて頻繁にクマが出没する現状を受け、秋田のクマの生態や短期的・中期的な対策、狩猟文化、野生動物と人の共生とは何か、事例を挙げ多角的に話し合います。来場者と登壇者による意見交換や、関連書籍の販売も行われました。

登壇者(敬称略) : 石川 直樹(写真家) / 角幡 唯介(探検家・作家) / 近藤 麻実(秋田県自然保護課) / 田口 洋美(一般社団法人狩猟文化研究所) / 服部 文祥(登山家・作家)





共に作りたい！

「風景と記憶を縫い合わせた  
風景の物語」

# クリエイター・イン・レジデンス 2025 “TAPESTRY OF LANDSCAPE” 風景のタペストリー

# 創造実験



初めて出会う  
人たちが  
風景の物語を  
織り出す



滞在期間 | 9月1日～11月1日

会場 | 秋田市文化創造館

クリエイター | ラクミ・フィットリアニ (Rakhmi Fitriani)

秋田市文化創造館は開館以降、多様な分野のクリエイターを招き、市民と共に創造力を刺激する実験的な活動を実施しています。今年度は、国内外あわせて306件の応募の中から選ばれたアーティストであるラクミ・フィットリアニさんをインドネシアから招き、創造館を拠点に秋田で創作活動に取り組みました。フィット

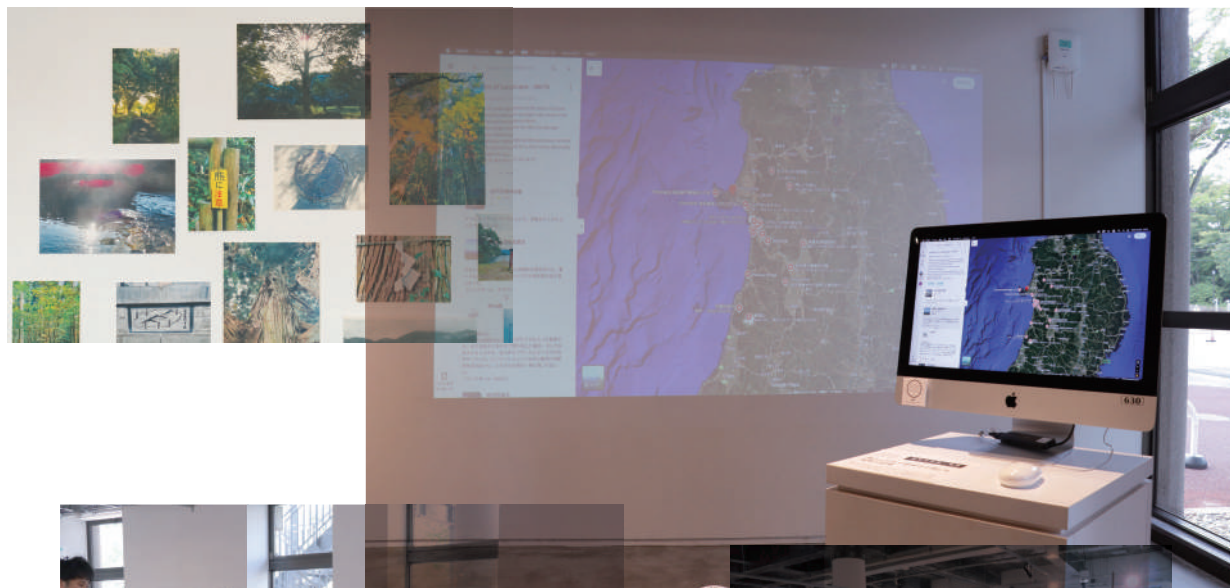
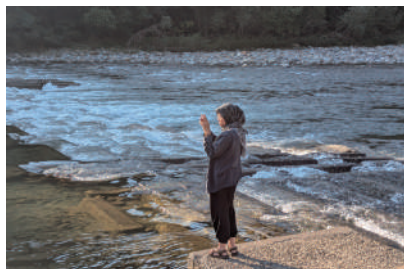
リアニさんが提案したプロジェクトは「風景のタペストリー」です。初めて出会う人々が自身の経験や記憶を語り合い、みんなで縫い合わせることで「風景の物語」を作品として織りなすプロジェクトです。



レポートはこちら

# クリエイター・イン・レジデンス 2025 “TAPESTRY OF LANDSCAPE” 風景のタペストリー

# 創造実験



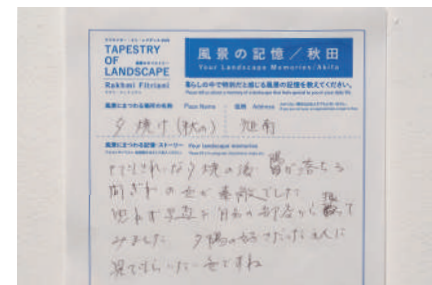
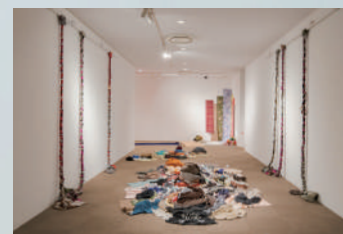
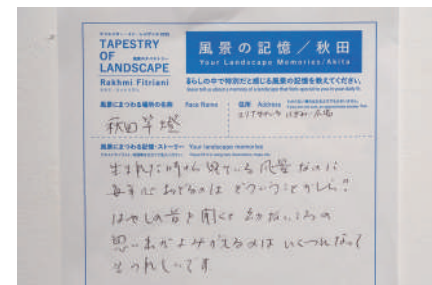
## 【ワークショップの実施】

- ・秋田市文化創造館（9月8日、10日、15日、17日、21日、23日）
- ・地域活動支援センター「アートリンクうちのあかり」出張（9月25日）
- ・学童保育施設「ハラッパ AFTER SCHOOL」出張（10月1日）

フィトリアニさんは文化創造館内外での全8回のワークショップや来館者との交流を通じて、秋田各所にまつわる「風景の記憶」の物語を集めてきました。その数はおおよそ50箇所を上ります。滞在期間の後半は、フィトリアニさんが実際に参加者からお聞きした場所へ旅を繰り返し、秋田の風景を自分の身体で深く実感しようと試みました。

# クリエイター・イン・レジデンス 2025 “TAPESTRY OF LANDSCAPE” 風景のタペストリー

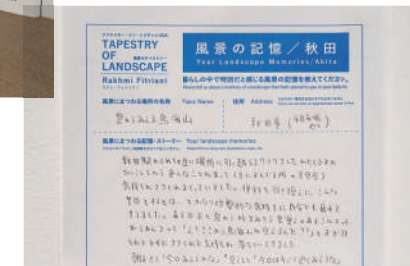
＃創造実験



【ラクミ・フィットリアニ アーティストトーク】  
開催日 | 10月25日  
聞き手 | 佐々木蓉子  
(弘前れんが倉庫美術館 アシスタントキュレーター)



【成果発表の実施】  
開催期間 | 10月19日～30日  
会場 | 3階スタジオA3



# 地域連携



お隣さんと  
手を携えた日

つながりたい！





「にぎわいミニライブ」 秋田市にぎわい交流館 AU



「チャレンジマーケット」 秋田市文化創造館



「舞台機構見学会」  
あきた芸術劇場ミルハス 大ホール



「ミルミルマルシェ!」 あきた芸術劇場ミルハス



「オープンステージ」  
あきた芸術劇場ミルハス 中ホール



「ミルハスピアノききくらべ」  
あきた芸術劇場ミルハス 小ホールA



「レコード鑑賞会」  
秋田市立中央図書館明德館 2階研修ホール

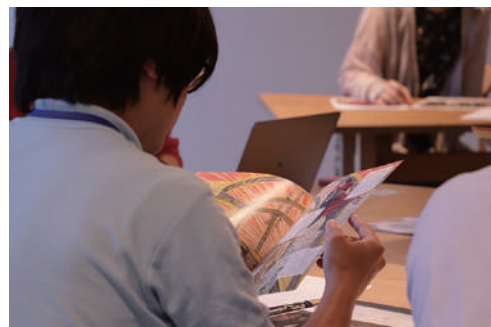
開催日 | 5月3日～6日

会場 | 秋田市文化創造館、あきた芸術劇場ミルハス、  
秋田市にぎわい交流館 AU、秋田市立中央図書館明德館

ゴールデンウィークの4日間、秋田市内の千秋公園・なかいちエリアを巡り、  
楽しむイベント「フリー・オープン・デイ2025」を共同開催しました。



レポートはこちら  
執筆：日比野桃子



参加者 | 秋田市文化創造館、あきた芸術劇場ミルハス、

秋田市にぎわい交流館 AU、秋田市立中央図書館明徳館 各担当者

近隣に位置する四館では定期的に、情報交換を主にした打ち合わせを行っています。各館が予定しているイベント情報や、フリー・オープン・デイの内容、広報計画などを共有し、来場者の周遊を促すことを目指しています。今年度は近隣に熊が出没したため、各施設の対策なども共有しました。

文化芸術を  
切り口に  
秋田に  
暮らす人々が  
まちづくりに  
関わる  
きっかけを

#文化創造プロジェクト

2021年3月～2026年3月

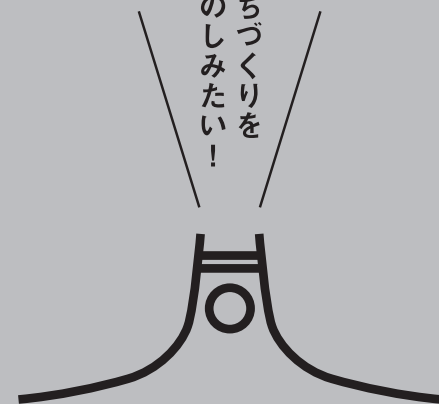
## 秋田市「文化創造プロジェクト」

秋田駅近くの芸術文化ゾーンを重点エリアとし、市民や民間、行政が広く連携し、多くの人やまちとつながりを持ちながら「未来の文化（価値）を創っていくための取り組み」を文化創造館を拠点に展開してきました。

2021年には秋田市文化創造館の開館に合わせて展覧会「200年をたがやす」を開催。2022年からは「PARK-いきるとつくるのにわ」を実施し、多様な人々が関わり、創造する場を育んできました。2025年度は街中の文化活動取材・発信する「秋田まちなか作戦室」の実施に加え、これまでの活動を未来へつなぐためのワークショップやリサーチに取り組みました。

主催：秋田市 / 企画・制作：NPO 法人アーツセンターあきた

まちづくりを  
たのしみたい！





2021年3月～9月

# 200年をたがやす

#文化創造プロジェクト



「伝統的工芸品をたがやす」第2回「シン・樺細工の道」



「プロジェクトの研究会」成果発表会



## #文化創造プロジェクト



2024年2月3日 わいなきょうこ「雪室開封の儀」



2023年5月13日 夏野菜の苗植えと種まき



2024年8月18日  
空間をひらき、人とつなぐ：活動場所とコミュニティのつくりかた



2024年9月21日 街角パフォーマンスフェスティバル



2024年1月20日～2月4日  
展覧会「交わるにわ、創造するキッチン」

2022年7月～2025年3月

# PARK-いきるとつくるのにわ



2022年8月22日 身体0ベース運用法（安藤隆一郎）「野菜身体測定会」



2025年2月24日 冬の遊歩道の景色をつくってみる



2022年9月11日 親子でサバイバル（火・食・住）



#文化創造プロジェクト



2025年9月～2026年2月

# 秋田まちなか作戦室



2025年10月11日  
駅前芝生広場の使い方を試そう



2025年11月8日 駅前エリアのマップを作ろう



2025年11月23日  
新しくなった佐竹史料館を見にいこう



2025年8月24日  
秋田駅前の使い方を  
想像するミーティング vol.2



2025年10月17日 「さんど市」のレポートを作ろう

活動拠点 | 秋田市文化創造館 / 活動エリア | 秋田市中心市街地

秋田市中心市街地・駅前エリアで開催されるさまざまな催しや文化活動の現場に足を運び、取材・発信・提案を行う「秋田まちなか作戦室」。集まったメンバーと共に、街中で行われる活動の取材・レポートの作成や、まちづくりに関する会議への参加、秋田駅西口駅前広場（芝生広場）での企画実践、駅前エリアのマップづくりなどに取り組みました。



活動記録はこちら

自分の知らなかった活動に出会い、  
秋田で過ごすことが  
楽しくなるようなものが  
既にたくさんあると知った。

〔秋田まちなか作戦室〕メンバー

普段の授業では  
できないような、  
行政、NPO、市民と  
関わる連携授業ができた。

〔大学教員〕

大学の授業だけでは  
わからなかった、  
展示会の運営や  
イベントの対応を、  
実際に現場でやってみる  
経験ができました。

〔インターン学生〕

自分から活動を  
始めるためには、  
一人で動くのではなく、  
人との出会いや支え  
となる場があることが  
大切だと思います。

〔イベント参加者〕

どんな人でも  
受け入れる  
雰囲気が  
良かったです。

〔イベント参加者〕

自分が関わった場所が  
これからどう変わって  
いくのか、見守っていききたい。

〔秋田まちなか作戦室〕メンバー

## 文化創造プロジェクトに関わった人たちの声

地域にとって新しいものである我々と  
ずっと地域の動きを知っている人たちの  
繋がりが深まったのが印象的です。

〔地域のクリエイター〕

担当者レベル・現場で  
動いてる人たちと  
コミュニケーションを取ることが  
すごく大事だと感じているので、  
それが叶ってよかったです。

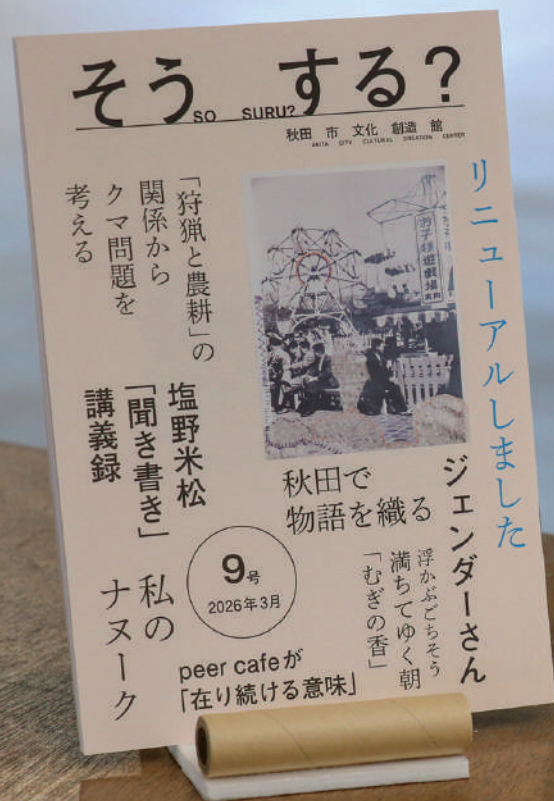
〔市内の文化施設職員〕

新しい層の  
人たちが  
活躍できる  
場所や  
プラットフォームを  
作れたことを、  
運営上の  
手応えとして  
感じます。

〔プロジェクト  
担当スタッフ〕

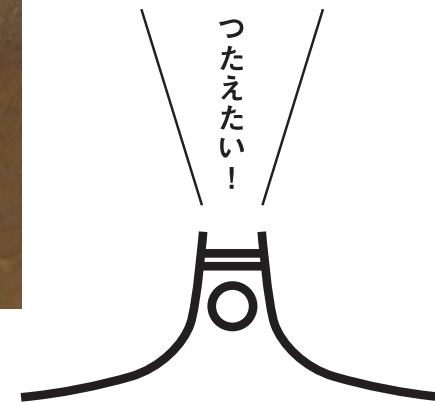
参加者の皆さんとまちについて話す時間を  
共有できたことは、大変貴重な経験であり、  
一人ひとりの言葉や感性が、  
秋田の日常を形づくっていることを実感できました。

〔市役所職員〕



小さなきつかけも  
記録し、残す

つたえたい!



## インタビュー連載 「あこがれのひと」



### 第7回 ギャワリ・イシュワリ・プラサドさん 「インド料理 ラクスミ」 店長

秋田に暮らす人の活動をインタビュー記事を通じて伝えています。第7回は秋田市外旭川の「インド料理 ラクスミ」の店長ギャワリ・イシュワリ・プラサドさん。ネパール西部の山あいでも育ち、秋田で美味しいカレーを振る舞うようになり来年で20年がたちます。



連載はこちら



## 情報誌 「そうする？」発行



招聘作家や創造館に集う書き手によるエッセイ、町の紹介、事業レポートなど、創造館と秋田の魅力を伝え残す情報誌です。これまでのニュースペーパー形式から9号より A5 サイズの冊子となりました。一篇一篇大切にお読みいただけるよう工夫を凝らしています。



## 秋田市文化創造館ラジオ公開収録 「管啓次郎さんのお話 ～白神山地を歩く～」



開催日 | 8月20日  
会場 | 文化創造館 1階コミュニティスペース

詩人・管啓次郎さんを招き、秋田県白神山地周辺を歩いた記録や、「歩行」によって土地を知り、思考する方法についてお話しいただきました。トークの様子は文化創造館のspotifyアカウントから聞くことができます。



# ショップ・カフェ



## ショップ 「○HAJIMARU」

秋田県内のお店や作り手による日用雑貨、焼き菓子、書籍のほか、秋田ならではの土産品などを取り扱っています。また、文化創造館の主催事業に関連するグッズも期間限定で販売しています。秋田市内に店舗のある「08COFFEE」のコーヒーなど、セルフサービスで楽しめるドリンクもご用意しており、館内でくつろぐ際のお供にぴったりです。

運営：NPO 法人アーツセンターあきた

## ZINE STORE AKITA

開催期間 | 4月9日～6月9日

8月1日～9月29日 / 12月1日～1月31日

「ZINE (ジン)」とは、個人が自由な手法で作る少部数の冊子のこと。一般公募で募った、秋田にゆかりのある方たちが手がけた多種多様な ZINE を期間限定で販売しています。漫画から写真集、秋田弁をまとめた本まで、自分で作ったものなら何でも OK !



## オリジナルハーブティーの販売

秋田県産、上品な爽快感のある香りと柑橘系のすっきり爽やかな、オリジナルブレンドを「農園晴々」さんに作っていただきました。素敵なものと出会ったり、自然と笑顔になるような心躍る「ときめき」を感じられる、そんな一杯をぜひご賞味ください。



## カフェ「豆腐百景」

秋田県産の大豆「りゅうほう」を使用した豆腐専門店です。通常の営業はもちろん、平日夜にお豆腐と合わせたお酒も楽しめる「豆腐酒百景」や、熊の出没により起きた自粛ムードを吹き飛ばすように、秋田のクリエイターを集めた「フリマ百景」も企画。2026年1月25日をもって秋田市文化創造館店の営業は終了しました。





どうだった？

県内外の様々な分野の専門家を招き、文化創造館の成果や課題について議論を蓄積する場として、毎年委員会を開催し、今年もそれぞれの視点から評価をいただきました。



## 現場の余力確保と 企画の柔軟性維持に期待



### 大澤苑美

(八戸市美術館 学芸員)

八戸まで館の評判が聞こえていて、美術館職員からも視察したいという意向を聞く。杓子定規になりがちな貸館利用を1件ずつ丁寧に対応する姿勢こそが、今の確かな口コミと成果を生んでいると感じる。また、地元新聞社が委員にいるなど、活動を代弁してくれる「伴走者」の存在も非常に心強い。今後は事務効率化のために行政とのさらなる連携も模索しつつ、現場の負担を抑えてほしい。何より、危機感や変化に即座に反応できる「企画の柔軟性と余力」を、これからも大切に持ち続けてほしい。

## 目標達成の先にある 「余白」を楽しむ



### 大澤寅雄

(アートNPOリンク理事長)

開館時から評価に関わっているが、文化創造館はその評価が現場の改善につながっており、手応えを感じる。職員の処遇改善も実現しつつあり、今後は評価に応じて市と共に予算に反映できる仕組みがあるとよりすごい。現在は定量的な目標をクリアし、安定期に入っているとも言える。これからは数値ではなく「どれだけ土壌を耕せたか」を大切にしたい。例えば「おやさい隊」のように、市民の文化的活動が日常に広がる姿こそがこの館のビジョン。目標達成の先にある「余白」を楽しみ、今まで起きていなかったことを開拓していくことを楽しみに思う。

## 利用者が試行錯誤できる 「不便だけど自由な余白」



### 尾花賢一

(秋田公立美術大学 准教授／美術家)

開館時に目指すイメージとして聞いた「はらっぱ」のような風景が、着実に形づくられてきた。中学生が待ち合わせに使い、催しがなくても人が集まる。かつての美術館のイメージから、誰もが自由に使いこなせる場所へと育ってきている。展示を含め利用者に対する寛容さと空間の美しさは、学生や県外ゲストを案内する際の特徴として伝えている。今後は、スタッフがどこまで手を貸すか「コーディネート」の範囲を検討する必要があるかもしれない。あえて全てをサポートせず、利用者が試行錯誤できる「不便だけど自由な余白」を残すことが、自走するリピーターを生むことにつながる。

スタッフが個々の才能を  
存分に発揮できる環境整備



## 鈴木のぞみ

(合同会社 秋田まちとケア協働舎 代表)

開館当初は「文化創造って何？」という声も多く聞かれたが、今では学生から高齢者、そして最初接点が薄かった福祉関係者までが「自分の居場所」として見出し、5年経って市民に広く浸透してきたと感じる。一方で、マルチタスクをこなすスタッフの皆さんが、クリエイティブなスキルを事務作業で埋もれさせていないか気にかかる。市内の他施設でも相談対応は行っているの、連携できることを増やしなが、スタッフが個々の才能を存分に発揮できる環境を整え、モチベーションを維持すると良いのでは。

市民が運営の一部を  
自発的に担うような関係性



## 野村政之

(長野県文化振興事業団アーツカウンシル推進局  
ゼネラルコーディネーター／演劇制作者)

当初は「利用者主体」の理想が実現できるのか半信半疑だったが、住民同士のつながりが生まれ、新たな自治の基盤が築かれつつある手応えを感じる。今後は、ここで生まれた活動の「タネ」が地域へ広がり、住民の日常に溶け込むプロセスを可視化してほしい。館からの一律の広報だけでなく、利用者が館の出来事をそれぞれ表現し始めると「情報の受け渡し」の回路が多様に広がっていく。そうして市民が運営の一部を自発的に担うような関係性が深まり、地域の日常と結ばれば、それは数字では測れない、この館の真の価値になるのではない。

多様な媒体を巻き込む  
戦略的な広報に期待



## 松川敦志

(秋田魁新報社 取締役・統合編集本部長)

この館がもたらす「遊び」や「彩り」は社会に不可欠。社会全体が失敗や実績不足を批判するのではなく、可能性に目を向けていくのが望ましい姿だと思うので、創造館の今後に期待する。一方で、ユーザーの固定化がおきつつあるとも思うので、今後は「文化」という言葉に身構えてしまう層にもその面白さをどう届けるかも鍵。SNSの活用はもちろん、既存メディアだけでなく多様な媒体を巻き込む戦略的な広報に期待している。単なる数字に捉われず、まだ足を運んでいない人たちに「抱き込んでいく」ような、開かれた情報発信と企画の両立を期待する。



## 耕されてきた土が 新しい営みを静かに受け止めはじめている

2025年度の終わりを迎え、秋田市文化創造館でこの1年に起きたことを、ひとつひとつ思い返しています。まず思い浮かぶのは、さまざまな集いの光景。多くの方がこの場所を訪れ、集い、表現し、語り合いました。けれども、文化創造館が大切にしてきたのは、人が集まることそのものではありません。誰かの表現や営みに触れた人が、やがて自分なりの仕方に関わりはじめること。ひとつの関わりがまた別の関わりを呼び、この場所の空気や時間に少しずつ変化をもたらしていくこと。そのような循環が、今年度もこの場所のあちこちで息づいていました。

開館のとき、文化創造館では「200年をたがやす」という展覧会が行われました。その言葉は、以来ずっと、この場所のどこかを静かに流れ続けているように思います。耕すとは、すぐに成果を求めるのではなく、土の力を信じ、少しずつ手を加え続けることなのかもしれません。2025年度、文化創造館は開館5周年を迎えました。その節目に立ち振り返ると、これまで少しずつ耕してきた土に、たしかな変化が生まれていることに気づきます。まだ名づけきれないものも含めて、この場所には何かが育ちはじめている。そんな手応えを感じた1年でした。

レジデンスでは、インドネシアから迎えたアーティストの滞在を通して、土地や地域、秋田の人とのあいだに、自然なつながりが生まれました。また、おやさい隊をはじめ、この場所に自分なりの役割や関わり方を見つける動きも続々と現れています。それぞれの人がこの場の一部になっていく姿は、耕されてきた土が新しい営みを静かに受け止めはじめていることを教えてくれます。

文化創造館に熊が現れたことも、今年度を語るうえで忘れがたい出来事でした。緊急開催されたトークは、その非日常的な出来事をきっかけに、秋田の自然と土地の人々との真摯な関わりをあらためて浮かび上がらせました。創造とは、人の手による表現だけで閉じるものではなく、土地や環境、出来事との応答のなかにも立ち現れるのだと感じます。

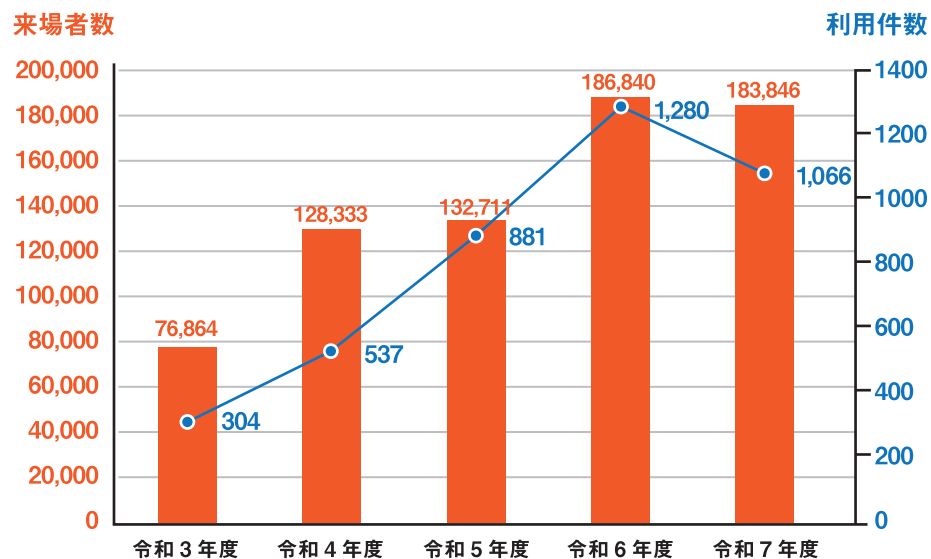
この土に、これから何が育っていくのか。それは、まだひとつには定まりません。だからこそ、その未知の余白を大切にしながら、これからも皆さんとこの場所を耕し続け、ここから何が始まり育っていくのか、ともに見つめ、育んでいけたらと思います。

西原 珉

(秋田市文化創造館 館長、キュレーター、心理療法士)

# 5年間の推移

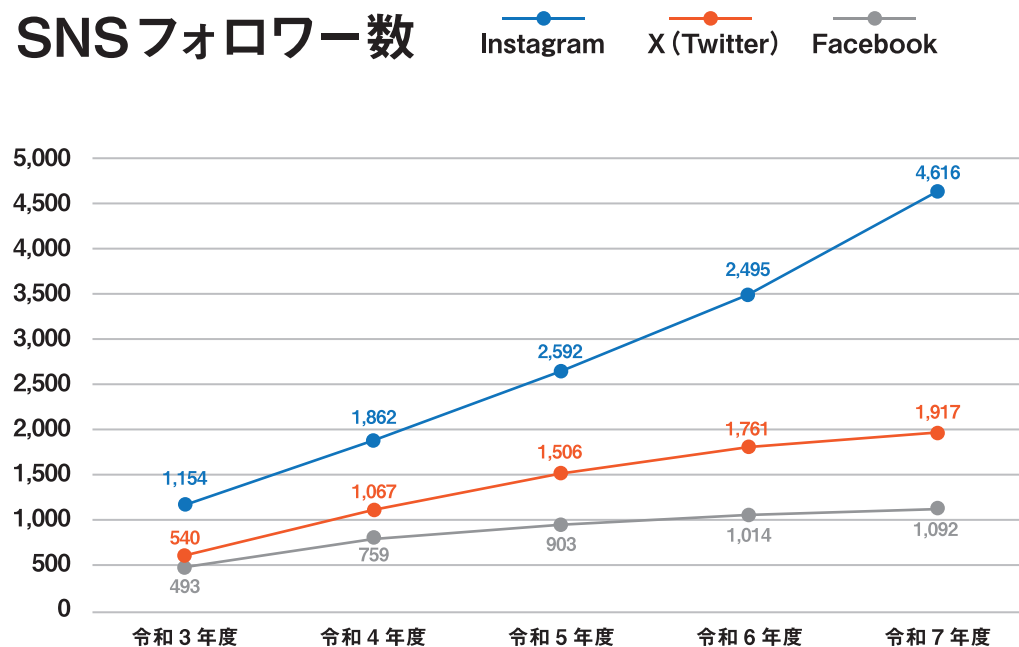
## 来場者数と利用件数



【来場者数】開館当初はコロナ禍の影響により認知拡大に時間を要したものの、3年目には秋田市の目標値である「年間13万人」を達成しました。以降も安定して目標水準を維持しています。

【利用件数】施設利用件数は前年度をやや下回りました。これは、前年度までに多かった市主催事業（主に「文化創造プロジェクト」）の減少に加え、当施設で活動していたリピーターが自身の活動の場を新たに設け、展開したことが理由として挙げられます。これは、当館の活動を通じて自立・成長したという一つの成果の表れです。今後は、利用率の高い土日祝日に比べ、余裕のある「平日」の活用が課題です。新たな層の開拓や、平日ならではの利用シーンの提案を引き続き検討していきます。

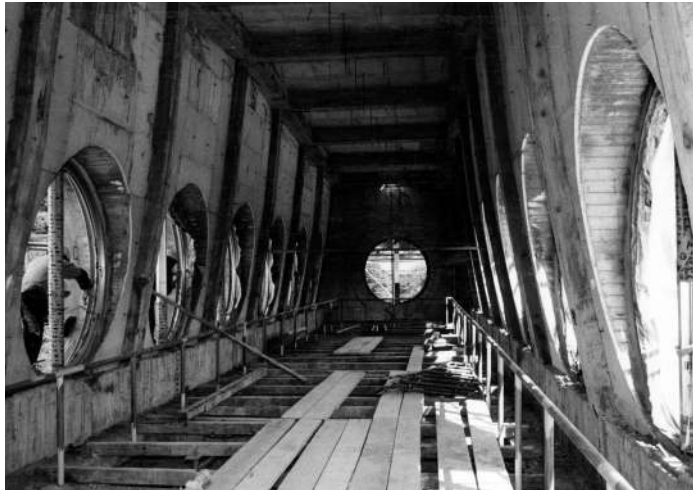
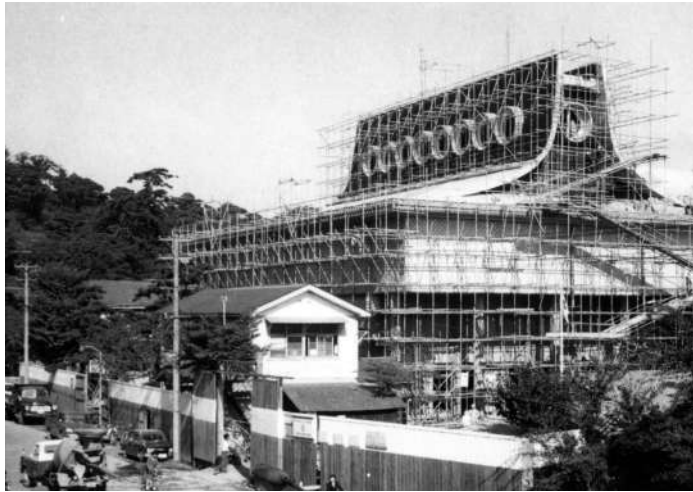
## SNSフォロワー数



各フォロワー数は開館以来着実に増加しており、特にInstagramの伸びが顕著です。週に1回、その週の利用の様子をまとめた投稿を行い、当館の多様な利用を示すアーカイブ機能も果たしています。

また、フォロワー数に対して高いリーチ率を維持しており、月間インプレッション数はフォロワー数の20倍を超える10万件以上を安定的に記録しています。これは、日々のストーリーズ更新と、フィード投稿による新規層への拡散が両立できている結果と言えます。引き続き、各SNSごとの特徴を活かしながら情報発信を行っていきます。

# 建物について



写真：(株)みどり光学社所蔵



秋田市文化創造館の建物は、1967年に秋田県立美術館として秋田市中心市街地の久保田城跡・千秋公園のお堀近くに建設されました。独特な形状の屋根と円い窓は、藤田嗣治の大壁画「秋田の行事」を展示するため藤田の助言により大空間に光が降り注ぐよう設計されました。2021年3月に改修工事を経て秋田市文化創造館に。2023年、「日本におけるモダンムーブメントの建築 280 選」に選定されました。

# 秋田市文化創造館 アニュアルレポート 2025年度

発行日 | 2026年3月

発行元 | 秋田市文化創造館（指定管理者 | NPO 法人アーツセンターあきた）

企画 | 秋田市文化創造館

デザイン | 澁谷デザイン事務所

写真 | 石川 直樹

伊藤 靖史 (Creative Peg Works)

高橋 希 (オジモンカメラ)

星野 慧

秋田市文化創造館スタッフ

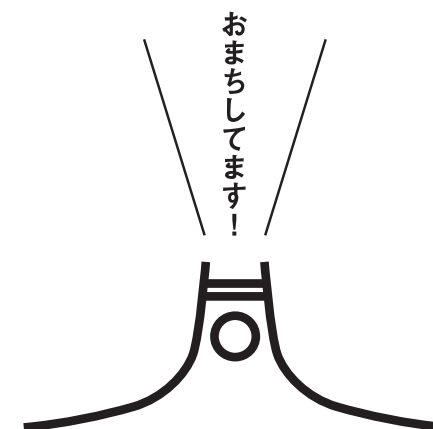
秋田市文化創造館

(指定管理者 | NPO 法人アーツセンターあきた)

〒010-0875 秋田県秋田市千秋明徳町 3-16

TEL | 018-893-5656 FAX | 018-893-5659 e-mail | info@akitacc.jp

<https://akitacc.jp/>



おまちしています!